

アンケート概要

<アンケートの目的>

県内公立学校に在籍する児童生徒から「障害があっても障害がなくても過ごしやすい学校」について意見を募り、「埼玉県特別支援教育推進計画（令和7年度～令和9年度）」策定にあたっての参考とするため。

（令和5年4月施行の「こども基本法」にも続き、「こども施策に対するこども等の意見の反映」として実施）

<アンケート対象>

県内公立小・中・高・特別支援学校の小学4年生から高校生（専攻科含む）までの児童生徒

<アンケート期間>

令和6年11月25日（月）から12月8日（日）まで

<実施方法>

Webアンケートへの回答（回答は任意）

アンケート概要

<質問内容>

1 問目：障害があっても障害がなくてもすごしやすい学校とは、どんな学校だと思いますか。

【選択肢（複数選択可）】

- ・ 苦手なことや困っていることに気づいてくれる先生がいる
- ・ 自分のよいところを伸ばしてくれる先生がいる
- ・ 困っていることについて、解決方法をいっしょに考えてくれる先生がいる
- ・ 苦手なことや困っていることに担任の先生や担任以外の先生、専門家の先生が協力しながら助けてくれる
- ・ エレベーターやスロープがあってみんなが使いやすい
- ・ 家の近くにあって通いやすかったり、生活に便利であったりする
- ・ 自分につながりのある人（学童保育や放課後等デイサービスの先生、お医者さんなど）が協力しながら助けてくれる
- ・ その他（自由に書いてください）

アンケート概要

<質問内容>

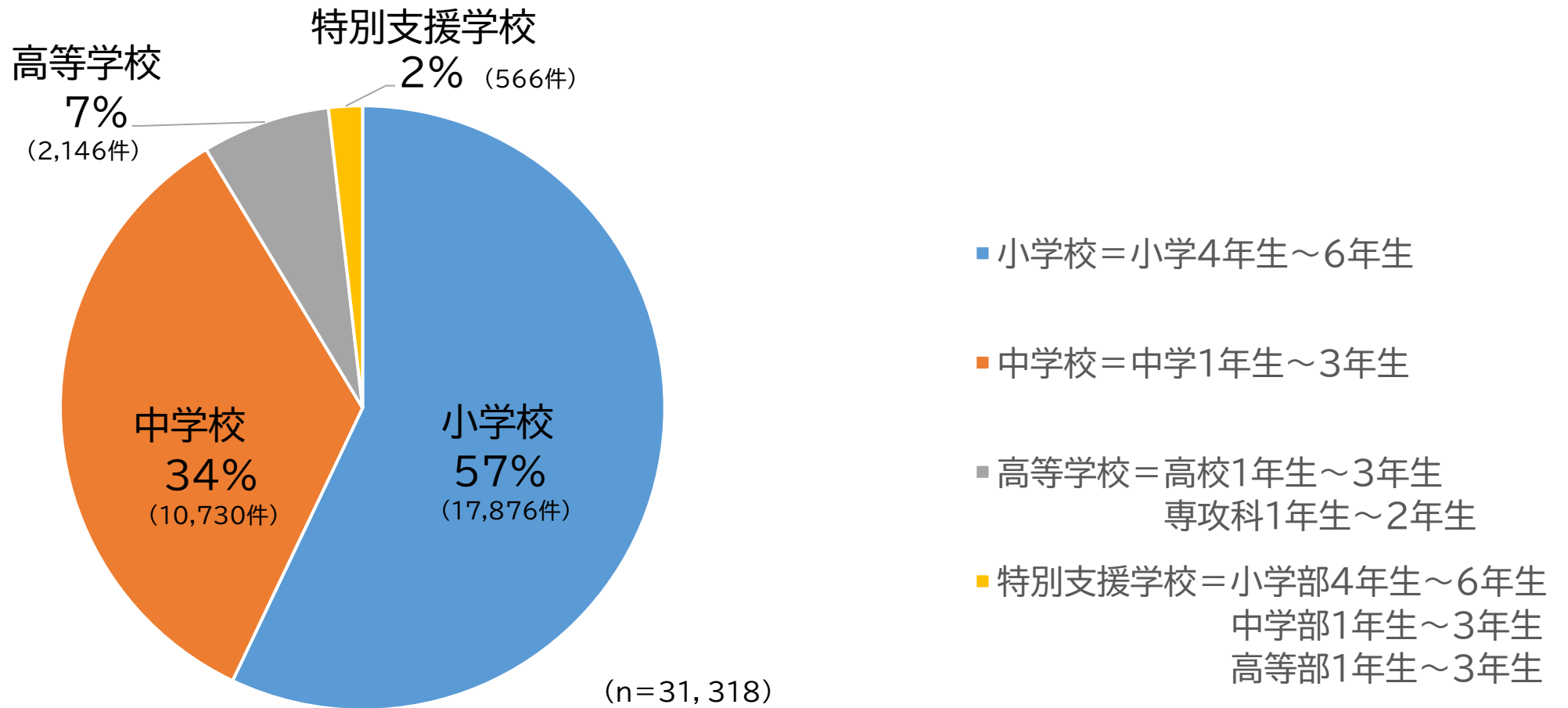
2問目：障害があっても障害がなくてもすごしやすい学校で行われるのは、どんな授業や学校行事だと思いますか。

【選択肢（複数選択可）】

- ・何に取り組んだらいいか分かりやすく、学んでみたい、やってみたいと思える授業
- ・絵や写真を使ったり、形にふれるブロックを使ったりして分かりやすくする授業
- ・苦手なことは、パソコンやタブレットなどを使って解決してもよい授業
- ・障害のあるひとも、そうではないひともいっしょに学ぶことにできる授業
- ・何に取り組んだらいいか分かりやすく、参加したいと思える学校行事
- ・障害にあるひとも、そうではないひともいっしょに参加できる遠足や運動会などの学校行事
- ・その他（自由に書いてください）

結果概要 回答者属性(学年)

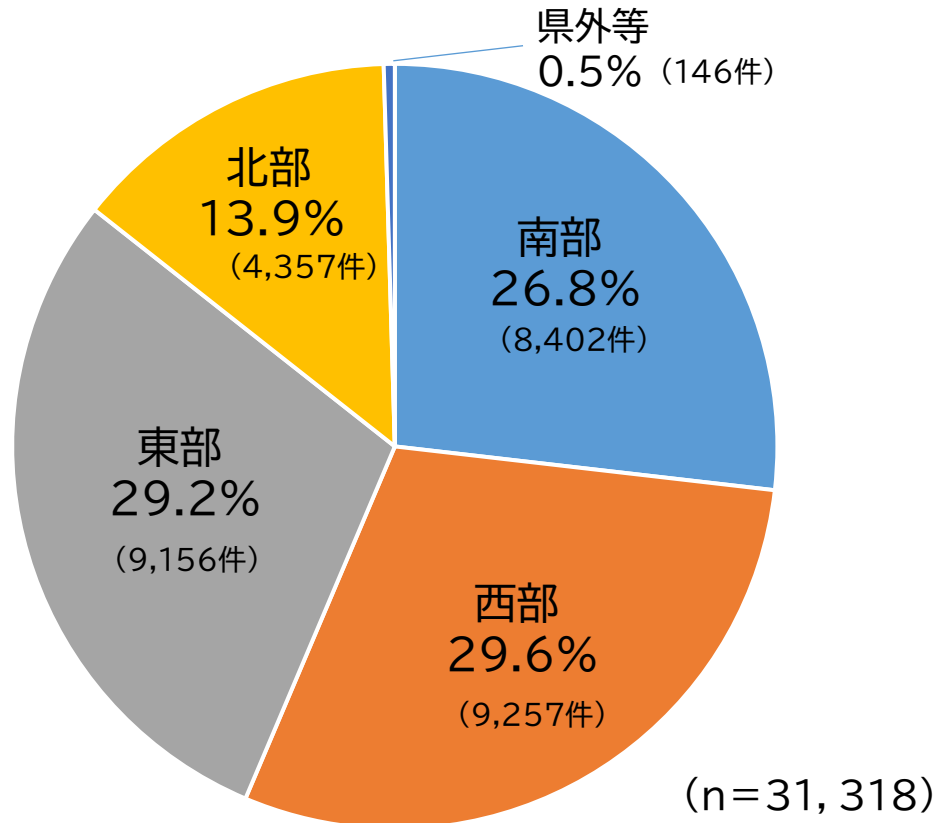
31,318件の回答が寄せられた。そのうち、「小学校」の回答が17,876件で全体の約57%を占め、最も多く、次いで、「中学校」・「高等学校」の順に多く、「特別支援学校」が最も少なかった。



結果概要 回答者属性(住んでいる市町村)

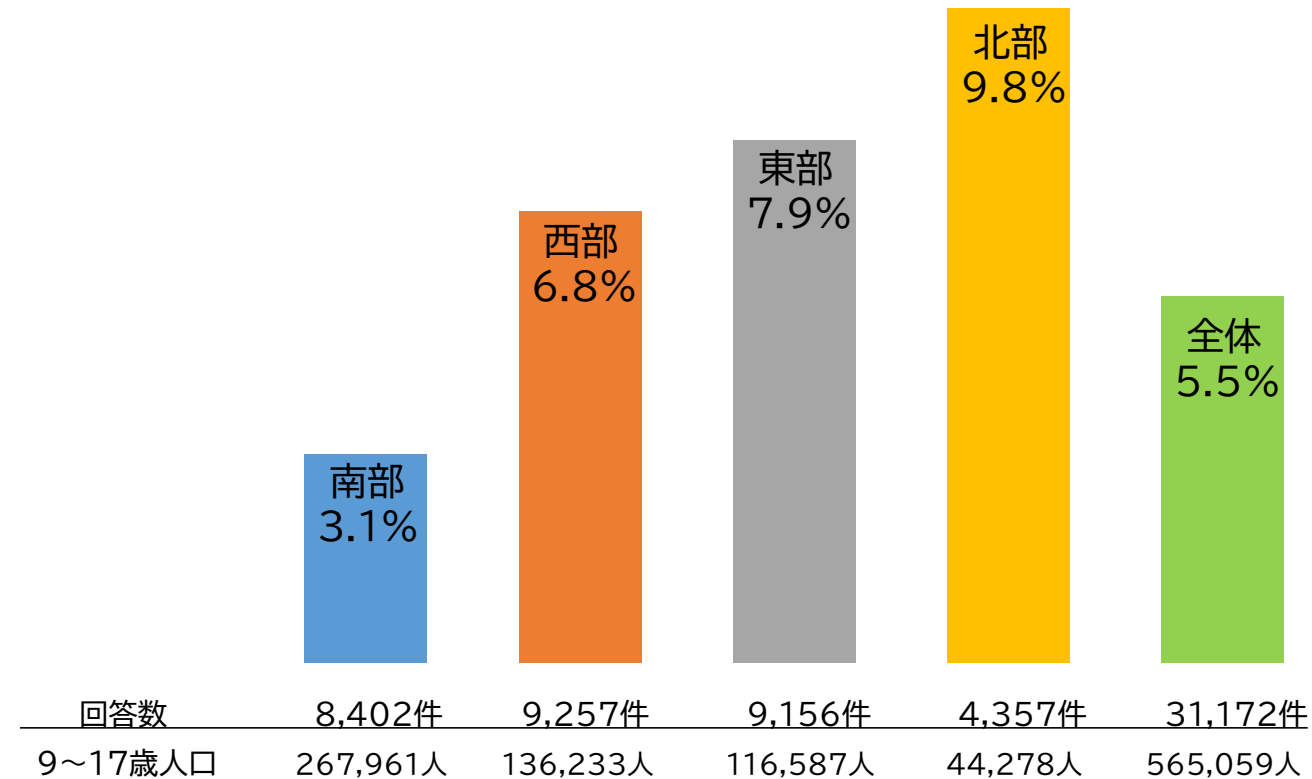
回答者の住んでいる市町村を東西南北に分類した結果、西部の回答数が9,257件で全体の29.6%を占め、最も多かった。また区域別の回答率を見ると、北部が9.8%で最も高かった。

【住んでいる市町村(区域)別】



*教育事務所担当区域別に東西南北に分類(さいたま市は南部に含む)

【回答率(区域別)】

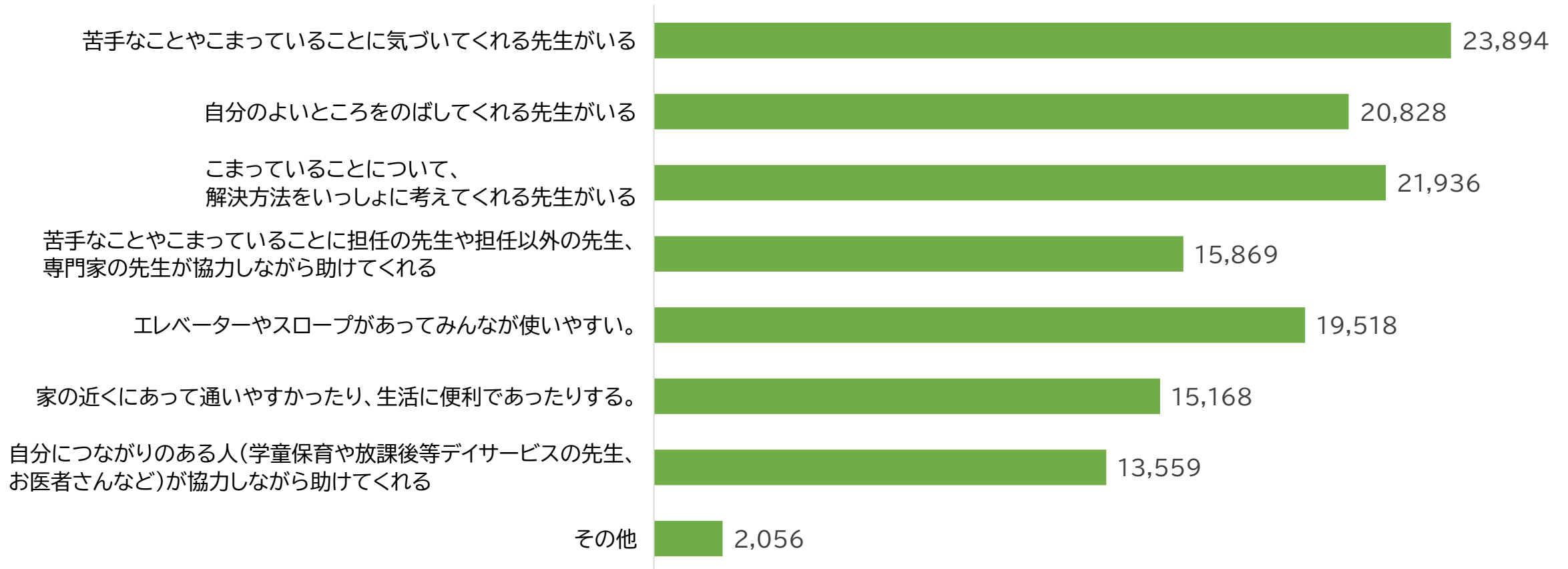


*埼玉県「町(丁)字別人口調査 令和6年1月1日 結果報告」より算出

結果概要 1問目の回答にあてはまる選択肢(複数回答可)

1問目の回答の内容にあてはまる選択肢を選んでもらったところ、「苦手なことやこまっていることに気づいてくれる先生がいる」が最も多かったが、他の選択肢もまんべんなく選択されていた。

【1問目:障害があっても障害がなくてもすごしやすい学校とは、どんな学校だと思いますか。】



結果概要 1問目の回答のうち、その他(自由記述)に関すること ※主な回答

■学校の相談・サポート体制について

- ・先生が特別支援教育について理解があり、定期的に研修を受け知識をアップデートしている（特支小6）
- ・困っているときに相談しやすい環境が整っていること相談しやすい人がいること（中1）

■教育環境について

- ・障害があってもなくても、個人の特徴を理解して、差別なく存在を認め合う教育（中1）
- ・きめ細やかなフォローができるよう、少人数クラス編成で支援員などの人的な余裕がある学校（高2）
- ・全員を同じように同じ基準に導き高めようとするのではなく、苦手を補い、得意を伸ばすそれぞれにあった方法で全員が全員の存在価値を認め合って高め合える学校（中3）

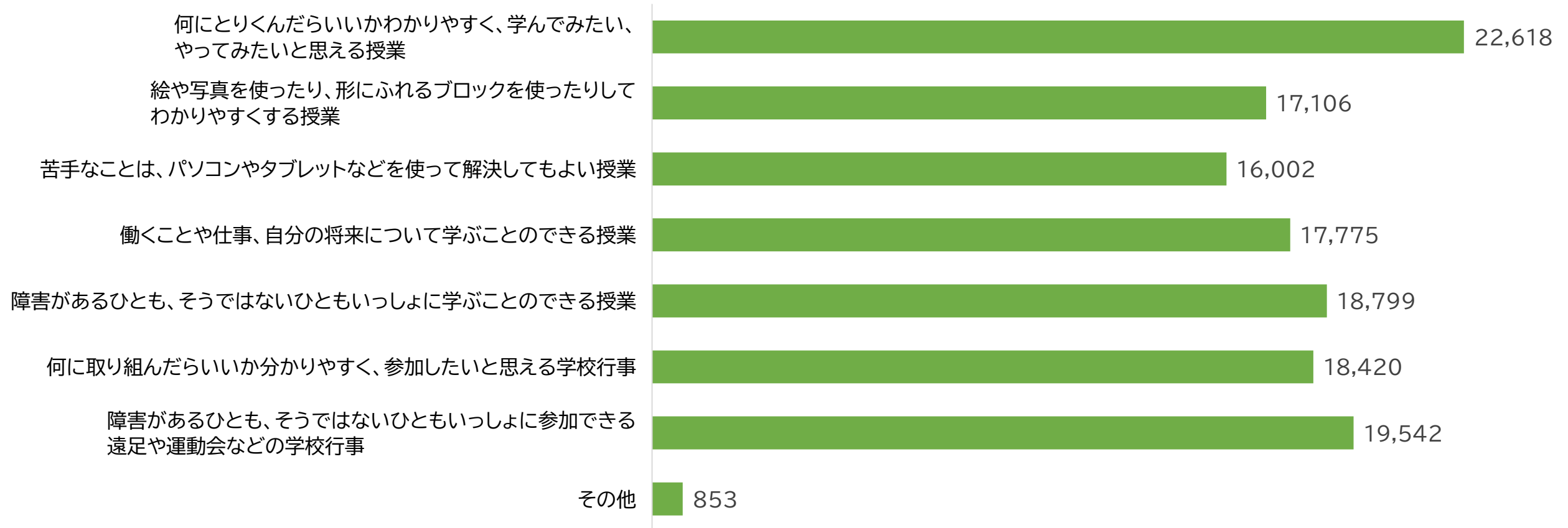
■コミュニケーションについて

- ・一緒に過ごす生徒達が障害を理解しようとしてくれて、助け合いながら生活できる環境雰囲気作りがされている（特支中2）
- ・共に過ごす友達の存在や先生以外に話ができる歳の近い存在の人がいても話やすく、居場所の一つになると思う（中2）
- ・先生が助けるのも大切だけど、生徒同士でも助け合えるような仲間を大切にする教育をして欲しい（小4）

結果概要 2問目の回答にあてはまる選択肢(複数回答可)

2問目の回答の内容にあてはまる選択肢を選んでもらったところ、「何にとりくんだらいいかわかりやすく、学んでみたい、やってみたいと思える授業」が最も多かったが、他の選択肢もまんべんなく選択されていた。

【2問目:障害があっても障害がなくてもすごしやすい学校で行われるのは、どんな授業や学校行事だと思いますか。】



結果概要 2問目の回答のうち、その他(自由記述)に関すること ※主な回答

■授業について

- ・ 教師が生徒の得意不得意を理解し、生徒が出来なかったことを否定せず寄り添い、苦手な部分を補える環境や授業（高3）
- ・ 生徒主体で考えられる授業をもっと増やして欲しい。障害の有無は関係ないし、自ら学ぶことが何より大事だと思う（小5）
- ・ 障害児の課題に合わせた個別の教育の時間もありながら、集団の中で当たり前に助け合いながら育ち合いが出来るカリキュラム（特支高3）

■学校行事について

- ・ 障害の有無に関わらず、全員がそれぞれの方法で活躍できる学校行事。（中3）
- ・ 子供達だけでなく、その親に対しても障害について知ってもらう機会となる行事（特支中2）
- ・ 障害があるひとも、そうではないひともいっしょに参加できる遠足や運動会などの学校行事が選択できる（特支中1）

■学校生活全般について

- ・ 障害の程度や特性に合った将来を見据えた学校生活（小4）
- ・ 職業体験や施設福祉施設・病院など訪問などの行事は多い方が子供たちの学習以外の知識を身につけられて、将来の選択種を広げられると思う（小4）